



第40回「九州現代音楽祭 in 宮崎～衛藤恵子追悼演奏会～」開催報告

実行委員 金井玲香

この度、皆様のたくさんのご協力のお陰をもちまして、第40回九州現代音楽祭が無事に開催されましたことを報告致します。

新型コロナウィルスの影響のため自粛を余儀なくされ、3年ぶりの開催となりました。半年前の2022年3月、オンラインでの総会で承認後、会長、副会長、事務局、特に実行委員の齊藤先生とはメールや電話で連絡を取り合いながら短期間で準備を進めることができました。また、衛藤先生の作品目録を作成され、楽譜管理もされていた鹿児島の中村礼香先生のご協力で展示スペースも設けることができました。

初めての実行委員で色々わからないことが多く、改めて衛藤先生の行動力、企画力、存在の大きさが度々懐かしく思い出されました。今回ご参加頂いた演奏家は衛藤先生と繋がりのある方がほとんどで、皆様、快く引き受けて下さいました。直前に依頼することになってしまったステージマネージャーや支えて頂いた会員の皆様の協力もあり、滞りなく演奏会を進行することができましたことに、本当に感謝しています。

演奏会の内容はフルート、クラリネット、バイオリン、チェロ、声楽、ピアノとバラエティーに富んだものとなりました。「衛藤先生のことで、心に整理をつけるために来ました。」と来場頂いた県外からのお客様、作曲を始めたばかりの小さな子供たちも数名来てくれました。

作曲家、演奏家、作品と聴衆が揃い、音楽の創造を発表する場、そして衛藤先生を追悼する場としてとても有意義な時間になったと思います。

演奏会後の懇親会は、コロナ禍のため初めは予定しておりませんでした。直前になり、せっかくの機会と企画しましたところ、多くの皆様にご参加頂き、とても楽しく新たな繋がりの持てる場となりました。

また、出演者の誰もがコロナに感染することなく本番出演できましたことに安堵しました。

尚、会員の方々のご協力により演奏会の様子は九州作曲家協会公式ページ、YouTubeに掲載されます。ご尽力に感謝申し上げます。

まだまだ大変な状況が続く中ではございますが、これからも九州作曲家協会を通して、人と人がつながり、音楽をさらに愛する人々が増えますことを心から願っております。



出品者集合写真：神屋由紀子（西日本新聞社）撮影



1. 衛藤恵子「An NAGISA für Violoncello」
チェロ 浜砂なぎさ



2. 金井玲香「風を見ていた〈初演〉」
ピアノ 金井玲香



3. 石田匡志「夕映の中に〈初演〉」
クラリネット 平山美津代 ピアノ 日高亜美



4. 吉田峰明「北帰行」 「ソナチネより第3楽章」
ピアノ 本田佳織



5. 近藤裕子
「旅路（亡羊記より）村野四郎作詞」
「海熱（海水民謡詩集より）」
ジョン・メイスフィールド作詞 千葉滋胤訳詞
ソプラノ 中原ちふみ ピアノ 西岡幹洋



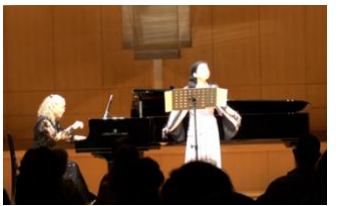
6. 米倉豪志
「Ad Astra」for Flute, Violin and Cello 〈初演〉
フルート 戸高美穂 ヴァイオリン 日高慶子
チェロ 浜砂なぎさ



7. 齊藤武「秋日の慈光〜ピアノのための〜」
ピアノ 武藤舞



8. 安川徹
「クラリネットとピアノのための〈春來たりなば〉」
クラリネット 平山美津代 ピアノ 日高亜美



9. 衛藤恵子
「<心の歌>〜牧水の歌による〜より 若山牧水 短歌」
「うすべにに／はつ夏の」
「子供の不思議な角笛」より「まっくろつぐみ」
ソプラノ 東由子 ピアノ 寺園玲子



1. 衛藤恵子「An NAGISA für Violoncello」
チェロ 浜砂なぎさ
2. 金井玲香「風を見ていた〈初演〉」
ピアノ 金井玲香
3. 石田匡志「夕映の中に〈初演〉」
クラリネット 平山美津代 ピアノ 日高亜美
4. 吉田峰明「北帰行」 「ソナチネより第3楽章」
ピアノ 本田佳織
5. 近藤裕子
「旅路（亡羊記より）村野四郎作詞」
「海熱（海水民謡詩集より）」
ジョン・メイスフィールド作詞 千葉滋胤訳詞
ソプラノ 中原ちふみ ピアノ 西岡幹洋
6. 米倉豪志
「Ad Astra」for Flute, Violin and Cello 〈初演〉
フルート 戸高美穂 ヴァイオリン 日高慶子
チェロ 浜砂なぎさ
7. 齊藤武「秋日の慈光〜ピアノのための〜」
ピアノ 武藤舞
8. 安川徹
「クラリネットとピアノのための〈春來たりなば〉」
クラリネット 平山美津代 ピアノ 日高亜美
9. 衛藤恵子
「<心の歌>〜牧水の歌による〜より 若山牧水 短歌」
「うすべにに／はつ夏の」
「子供の不思議な角笛」より「まっくろつぐみ」
ソプラノ 東由子 ピアノ 寺園玲子

2022.9.24.(sat) 16:00～
宮崎市民文化ホール イベントホール

「第40回九州現代音楽祭 in 宮崎」
～衛藤恵子追悼演奏会～に参加して

近藤裕子

彼女が会場のどこかにいるような気がした…。
当日は、とても自然で温かいコンサートになった。彼女を取り巻く人々が、作曲家が、演奏家が、聴衆が、ひとつになって美しい時間を紡ぎ出していた。

作曲家は彼女に想いを馳せ、演奏家は想いを奏で、聴衆は質の高い耳で想いに応えてくれた。

演奏会に尽力された関係者の皆様にも心から感謝したい気持ちでいっぱいである。利害関係のないシンプルな協会の演奏会がこれほど胸を打つのかと改めて感じた一日であった。一筋の光が差し込んだように清々しかった。

「衛藤さんありがとう」



衛藤先生のご友人からのお花

「第40回九州現代音楽祭」に参加して

安川徹

昨年、急逝された衛藤事務局長の追悼も兼ねての音楽祭ということで、明るくかつ彼女が大笑いしそうな作品を選んで演奏していただくことにしました。さらに、演奏も地元の演奏家に一任して、一路自家用車で宮崎に向かいました。

実行委員会の采配も素晴らしく、当日も練習～グネプロ～本番と、スムーズな流れで行うことができました。プログラムも実にバラエティに富んだ内容で、ほぼ満員の観客のみなさんもゲンダイオンガクという言葉に隠することなく、大変楽しんで聴いていらっしまったのが印象的でした。

感染症の影響にとどまらず、会員数の減少や、若年層の新会員の確保の難しさなど、開催する環境はますます困難になっていく状況にあります。様々な地域から集まった作曲家たちが作品を一堂に演奏する機会は、けっしてなくてはならないものだと感じることができた会でした。



演奏会場に設置された衛藤先生記念コーナー

「第40回九州現代音楽祭」に参加して

米倉豪志

ものごとは、一度間を空けると、元に戻るのに普段以上のエネルギーが必要となるものです。

今回、3年越しで現代音楽祭を開催できたことは、実行委員の皆さんの並々ならぬ努力の賜物であることはいまでもありませんが、さらにそこには、衛藤先生への感謝の想いがあったのではないかと、演奏会の最中にふと思ひ至りました。

演奏者も、観客も、地元の人々で作り上げた、まさに協会の再始動を象徴する素晴らしい演奏会でした。この意思を繋ぎ続けることがこれからの我々の使命だと感じています。



懇親会の様子

<第40回九州現代音楽祭 in 宮崎～衛藤恵子追悼演奏会～終えて>

齊藤 武

昨年の3月オンライン総会の中で、会長から今年こそは開催するという強い意志と衛藤さんの追悼をという提案で会の方針がしっかり固まったと思えました。会長から演奏会の構成に関しては一任されましたので、4月宮崎に向き、実行委員長の金井さんと対面で概要を相談しました。衛藤さんの作品譜面を鹿児島の中村さんから送ってもらい、地元演奏家のメンバーを考えて曲目を決定しました。出品された皆様の作品と共に、ほぼ構想通りに演奏会で上演できて大変良かったと思っています。

演奏されたチェロの浜砂なぎさんは、衛藤さんが亡くなった当日、直ぐに電話で訃報を知らせてくれました。その衝撃の大きさは直ぐに会員の皆様にも伝わったと思えます。彼女の名前をそのままタイトルにしたチェロ独奏曲は、現代曲を演奏した事のない彼女にとってもとても成長の糧になったと思えます。次に若山牧水の歌は、衛藤さんの晩年の作品に入ると思えます。長年お付き合いした私にとって、初演当時、日本人の詩を使うの？という意外さを感じましたが、曲調は以前とそれほど変わらず、日本語に対する音の処置は衛藤流に構成されていて、なぜか安心感もありました。郷里の放浪の詩人に何かご自分の境涯と重ね合わせた心情があったのだと推察されました。歌われた、東由子さんには今までも良く出演していただきましたが、ご自分が歌われない時でも、必ず都城から我々の演奏会に足を運ばれじっくり聴いて下さっていました。ピアノの寺園玲子さんは衛藤さんが歌曲を発表される時、特別に鹿児島から招聘し大切にされ、良く一緒に演奏されていました。お二人ともウィーンは勉強された地ですので、衛藤さんを長年良く理解され素晴らしい表現力だったと思えます。演奏会後直ぐにお二人から、感極まるお礼のメッセージをいただきました。最終曲「真黒つぐみ」は、アンコール曲的なイメージで、最も衛藤さんらしい曲だろうなと思い入れさせていただきました。

もちろん他にも再演したい曲は多くありましたが、時間的、演奏の質的な部分もあり、今回はこれで精一杯だったと考えています。また出品された会員の皆様の作品の演奏者の手配もありました。ほとんどの方々は、これまで衛藤さんが取り組んできた企画に参加されてきたメンバーです。彼らへの連絡や開催に際してほぼ全ての雑事を、実行委員長の金井玲香さんが涙ぐましい努力で多くの時間を割き奮闘されました。私たちのLINEでのやりとりは、演奏会が近づくにつれ日増しに量と時間が増えていき、深夜近くになることも多くありました。子育て中の彼女の境遇を考慮して申し訳ないと思う時も多々ありました。

こういう会を実行するのに、九州以外でも作品演奏会を企画し経験を重ね最も大変だと思うのは、まずどのくらい作品が集まり構成できるだろうかという心配。次に最終的にお金が入ってきて収支が賄われる前提で、ある程度まとまった金額を先に自己負担（今回はほぼ金井さん）して進めないとならないという事。会場費などはまず最初に押さえて支払いを済ませないとなりません。さらに補助金などの申請に関して多くの神経を使います。いくつか申請しましたが、時間が短か過ぎて残念ながら獲得できませんでした。ただ多くの聴衆にも恵まれ、収支はほぼ赤字を出さずに整いました。衛藤さんはそれらをいつも良くこなしていたとつくづく思います。多くの補助金を獲得し会に貢献された功績は多大でした。こういった神経の擦り減る作業は、古今東西作曲の演奏会だけではありませんが、作曲しながらの衛藤さんの神経の摩耗は相当激しかっただろうと推察するにあたり、大きな負担がかかっていたらと思うのを馳せすにはられません。ここであらためてご冥福をお祈りしたいと思います。

「秋日の慈光～ピアノのための～」について



この曲はプログラムにも書きましたが、母が亡くなった時、レクイエムとして作曲したピアノ独奏曲です。私にとって、本当に不思議な現象だったのですが、母が亡くなったのは68歳で私が宮崎に行って直ぐでした。面倒臭い良くて姉御肌で、衛藤さんに似たところがありました。ただ表に出るタイプではありませんでしたが、小さい頃から背中を押さればなして動かされて来ましたが、母が亡くなり衛藤さんが現れたみたいなのが少しあったのです。そしてさらに不思議なことに衛藤さんも68歳で亡くなりました。二人とも今の時代早逝ですね。そこで今回もう一度発表させていただこうという想いに至ったのです。母親代わりということでは無いのですが、宮崎に行った当時全く何も分からず、衛藤さんに引っ張られて作曲の会をいろいろできたという事は、今思うと感謝の一言に尽きます。

そして演奏した下さった武藤舞さん（群馬高崎出身で藝大ピアノ科出身の友人と同門で、直ぐにパリに留学、パリで活躍し宮崎出身の映画評論家のご主人と知り合い現在宮崎で教室を開いています）に、想像以上の素晴らしい演奏を繰り広げてもらえました。これだけのピアニストがほとんど知られていない状態であることを何とか紹介させていただきたいとずっと思っていました。宮崎の文化人、岩切（池辺）宣子さんに案内されて偶然知り合ったのですが、振り返って考えると多くの人とこの繋がりが作品発表の要因になっていたとしみじみ思えます。今までぐずぐずしていた私の作曲の後押しをもらった二人が亡くなり、これからはより自立して作品を書かなければなりません。そして68歳になった時に（なれるかな?）、彼女たちに自分もとりあえずここまではやったと報告できるようにはしたいと考えています。

～今後の協会主催事業のご案内～

♪九州作曲家協会セレクトティブコンサートシリーズ「春に想う、新しき音楽のカタチ」 2023年3月26日(日) (福岡県早良区)

♪第41回九州現代音楽祭 in 長崎 2023年9月30日(土) チトセピアホール (長崎県長崎市)

*いずれも時間等の詳細は追ってホームページ上にてお知らせいたします。

Journal 編集：嘉村真衣

§ 賛助会員募集中 §

九州作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方（法人もしくは個人）を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一〇〇,〇〇〇円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

<九州作曲家協会> <http://kcaj.net/> (「Journal」バックナンバーがPDFで掲載されています)

〒876-0802 大分県佐伯市日の出町9-9 Tel.070-8538-2946 e-mail: kyusyucomposersassociation@gmail.com